

## 人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

### 初夏・雪・春の嵐で春が足踏み

三月中旬に入り、「暑さ寒さも彼岸まで」と暖かな春を待ち望んでいたが、初夏の陽気が突然現れ、数日後には気温が急降下して雨が雪に変わり、その寒さで春の到来が足止めされ、カタクリの可憐な花弁は冷たい雨と寒さで震えているように見えました。

四月を目前に気温が上昇すると、暖かな陽気が戻り、テングチョウ、ルリタテハ、スジグロチョウが活発に飛び交い、ヤマドリソウ、ナガバノスミレサイシン、シュンランが満開、ヤマザクラが褐色の葉を展開して、二分咲きの花が本格的に春の到来を告げています。



ショウブ発芽、タチヤナギの芽吹き



カタクリ満開



ヤマザクラ二分咲き

### 2022年は13年ぶりにヒキガエルが産卵

2005年に乾燥化が著しい田んぼを、農的環境と生態系を保全する目的で活動を開始。その作業は伐採、除草、土起こし、湿地回復の水路づくりに挑戦、2007年に湿地が回復すると春にヒキガエル、ヤマアカガエルの産卵が見られました。

毎年、春になるとヤマアカガエル、夏はシュレーゲルアオガエル、モリアオガエルが産卵するようになったが、ヒキガエルは2009年以降から、個体も産卵も見られなくなり、その生態が心配でした。



2005年田んぼ回復作業(17年前)

2022年3月27日、13年ぶりにヒキガエルの卵塊が確認されました。ひも状の長い卵塊に黒っぽい卵が数千個以上も詰まっています。まもなく、卵からふ化した、ヤマアカガエルとヒキガエルのオタマジャクシが湿地と田んぼで泳ぐ様子が見られるでしょう。



2022年3月31日 田んぼと湿地の様子



ヒキガエル3月26日産卵